

第28回(昭和41年4月17日)

大串・鳥加の変成岩類

(2万5千分の1 板の浦)

10時40分、西彼杵半島内海線の大串のバス停留所に、長崎と佐世保を発ったバスが殆んど同時に着いた。巡検予定コースの簡単な地質の説明があった後、総勢46名の大集団が、車の通るたびに砂まこりがたちこめる国道206号線を南下する。大串の南小学校下より、鳥加に至る間は黒色片岩(絹雲母石黒片岩)が続き、片理面は大村湾側へ急角度で傾いている。道路の改修が行なわれている最中なので、新しい露頭が次々に見られるが、いづれも南北からN20Eまでの間の走向を示す片理面をもった片岩であり、その面もきわめて平坦である。道路がカーブしているので、片理の向きもそろわないような錯覚を起すが、クリノメーターで測ってみると前のものとあまり変化していないのである。

鳥加より鳥加川の右岸ぞいに南下する。片平より上多以良に至る開拓道路に入り、10分許り登ると、道路上には蛇紋岩や滑石の岩盤が出ている。これは結晶片岩と蛇紋岩との接触部に生じた滑石帯である。更に坂道にそった崖には、緑泥石の美事な結晶の集合体が層状をなしてあらわれている。内田・牟田両氏は、この露頭における鳥加蛇紋岩に発達する

緑泥石・滑石脈の帯状分布として次のように記載している。

(地質学雑誌64巻, 1958)

- 1帯: 蛇紋岩
- 2帯: 炭酸塩鉱物・滑石蛇紋岩帯(20cm)
- 3帯: 滑石帯(5cm)
- 4帯: 滑石・緑泥石帯(4cm)
- 5帯: 細粒緑泥石帯(2cm)
- 6帯: 粗粒鱗片状緑泥石帯(30cm)

()内は脈巾である。

これより200m登った所に巾広い石英脈の露頭がある。道路下には採掘跡もある。石英脈は2~3mの巾のものが3本あり、東方に60度程かたむいている。結晶片岩の片理に平行して太った分泌石英脈で、近く日曹砂鉄鉱業が、「鳥加珪石」として採掘を始める予定であるという。

一通りの鉱物採集を終えた後、昨年完成した西彼杵半島縦貫道路まで登って一休みしたが、4時半頃鳥加を通過するバスに乗るため谷にそった近道を引返す。

(鎌田 泰彦 記)

参会者 46名(正会員26, 学生20)